

JAしおざわ

これまでの実践内容と成果

1. 農業者の所得増大と農業生産の拡大に向けた取り組み

○ラック倉庫を活用した区分管理・区分販売を推進し、高付加価値米の販売拡充による、農業者の所得増大をはかりました。

・28年産米 15億9,208万円 ・29年産(仮渡) 11億4,741万円
(販売) 6億6,575万円



○大型規格農薬の推進により、使用率を15%向上させトータルコスト低減をはかりました。

平成30年月末実績：水稲除草の大型規格使用率28.5%（目標15%）



○生産購買担当と営農指導員に連携による低コスト資材提案を大規模農家を中心に173名に提案しました。



○精米所での南魚沼産コシヒカリの取扱量8,821俵の実績となりました。
（目標1万俵）

○地域の各種イベントに積極的に参加し
南魚沼産コシヒカリのPR活動を実施しました。



○フレコン集荷体制の整備、自己搬入への対応、TAC活動での恒常的な集荷推進を強化することにより、担い手からの集荷拡大をはかりました。

平成29年度実績：29年産米69,037俵（目標：75,500俵）



○園芸契約栽培の導入・拡大をはかり、販売取扱高を向上しました。

平成30年3月実績：集荷所出荷量30.9t

学校給食材料費217.9万円(昨年129.1万円)



○大規模生産者の秋作業の円滑化を支援しました。カントリーエレベーター利用者の利便性向上をめざしました。農地集積による規模拡大の把握、大規模生産者への利用推進、円滑な荷受体制の構築、利用料金の見直しをはかりました。カントリーエレベーター利用率60.1%



○園芸生産拡大に向けた多様な担い手の育成をめざしました。
全農オリジナル品種にミニトマト「アンジェレ」などの契約栽培を若手担い手と実施中です。



2. 地域の活性化に向けた取り組み

○健康管理活動(人間ドック)受信者の数の拡大をはかりました。
平成30年3月実績：106名(目標130名)



○営農指導企画と連携した食農教育(アグリスクールの開催)
平成30年3月末実績：67名参加

○地域を農と観光を合わせた行事を開催しました。
「家族みんなで稲刈り体験」を開催し県内外より43名に参加いただきました。



○共済3Q訪問活動によるあんしんチェックを実施し、世代単位のライフプランに合わせたきめ細やかなニーズ提案に取り組んでいます。

○「いがた農業応援ファンド」を活用し、担い手経営体への個別支援、地域活性化を応援しています。



自己改革完遂に向けた取り組み

- 需給調整の枠組みが大きく変わるなか、農業者の所得増大に向け農業施策の変革に対応した的確な情報提供を行います。
- 南魚沼産コシヒカリの高位安定化と1等級比率の向上に向け、前年度格落ち要因分析による改善提案や迅速な管理情報の提供を行います。
- 低価格肥料や省力化肥料農薬の供給を通じ、生産コストの低減を提案します。
- 地産地消活動や食農活動に取り組み、次世代へ地域文化アを伝える活動を実践します。
- 各種イベントに開催やホームページを活用した情報発信により県内外からの更なる誘客をはかり、地域経済の活性化をはかります。